

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議

宮城大崎宣言

私たち、ラムサール条約登録湿地関係市町村は、世界農業遺産に認定された豊饒の大地「大崎耕土」を潤し、古より遊水地や灌漑用ため池として人々の生活を支え、ガン類などの渡り鳥を始めとした多様な生物を育む「蕪栗沼・周辺水田」及び「化女沼」を有する大崎市に集い、湿地の保全や賢明な利用、湿地を活かした持続可能な地域づくりについて学習し、交流する機会を得ました。

本地域は、人の営みの中で作り上げ、保全されてきた人工湿地である水田地帯が広がり、先人の知恵により築かれた水管理システムによって潤い、湿地の恵みである豊かな農産物を享受してきました。同時に、地元農家の理解と協力を得ながら水田農業において、農業の営みと生物多様性やガン類など希少種との共生を両立してきました。

平成 17 年にはそうした水田の環境としての重要性が認められ、蕪栗沼が周辺の水田と一緒にラムサール条約湿地に登録され、平成 20 年には、ラムサール条約第 10 回締約国会議「湿地システムとしての水田における生物多様性の向上（水田決議）」に至りました。

水田農業は二千年以上にわたり脈々と受け継がれて来ました。環境負荷を減らし、多様な生きものに目を向けたワイスユースの一つであり、本地域においても持続可能な地域づくりの根幹として推進しています。

日本国内には多様な種類の湿地が存在し、多面的な機能を持つ湿地は、人々の生活や産業を支え、防災・減災の働きや学びの場などの恩恵をもたらし、豊かな生物多様性を育んできました。一方、近年の産業構造や生活様式等の変化に起因した湿地環境の悪化による多面的な機能の低下が懸念されております。

そこで私たちは、貴重な湿地を保全するとともに、湿地を活かした持続可能な地域づくりを目指すために以下の点に取り組むことを決意しました。

- 1 湿地の歴史や文化、恩恵などの価値や魅力をより多くの人に発信し、市民一人ひとりに湿地への関わりを促すことで、価値や魅力に気付くきっかけとし、保全意識の醸成を推進します。
- 2 関係主体間の交流により、それぞれの湿地が持つ課題や取組みを共有し、各湿地をつなぐ人の循環をつくることで、課題の解決につながる取り組みを推進します。
- 3 地域的な課題と世界的な課題のつながりを意識し、関連する条約や地域の特色ある産業や施策と連携・連動させ、取組みを波及させることによって、持続可能な開発目標（SDGs）等が目指す世界的な課題の解決に資する、持続可能な地域づくりを推進します。

現在、国内の条約湿地は 52 箇所まで、会員数は 70 市区町村まで拡大しました。これらの取組みを推進することで、「湿地は地域の宝」という認識が更に広範囲へ広がり、既存の登録湿地の保全活用が図られることを期待します。

令和元年 11 月 19 日

ラムサール条約登録湿地関係市町村会議会長 大崎市長

伊藤康志

釧路市長	姥名 大也
釧路町長	小松 茂
標茶町長	佐藤 吉彦
鶴居村長	大石 正行
栗原市長	千葉 健司
登米市長	熊谷 盛廣
浜頓別町長	菅原 信男
苦小牧市長	岩倉 博文
浜中町長	松本 博
厚岸町長	若狭 靖
習志野市長	宮本 泰介
加賀市長	宮元 陸
近江八幡市長	小西 理
高島市長	福井 正明
長浜市長	藤井 勇治
新潟市長	中原 八一
那霸市長	城間 幹子
豊見城市長	山川 仁
美唄市長	板東 知文
名古屋市長	河村 たかし
飛島村長	久野 時男
豊富町長	河田 誠一
幌延町長	野々村 仁
雨竜町長	西野 尚志
網走市長	水谷 洋一
小清水町長	久保 弘志
根室市長	石垣 雅敏
別海町長	曾根 興三
標津町長	金澤 瑛
三沢市長	小檜山 吉紀
檜枝岐村	星 明彦
片品村長	梅澤 志洋
魚沼市長	佐藤 雅一
日光市長	大嶋 一生
若狭町長	森下 裕

美浜町長	戸嶋 秀樹
串本町長	田嶋 勝正
松江市長	松浦 正敬
美祢市長	西岡 晃
竹田市長	首藤 勝次
九重町長	日野 康志
薩摩川内市長	岩切 秀雄
屋久島町長	荒木 耕治
渡嘉敷村長	座間味 秀勝
座間味村長	宮里 哲
石垣市長	中山 義隆
鶴岡市長	皆川 治
阿賀野市長	田中 清善
久米島町長	大田 治雄
七飯町長	中宮 安一
古河市長	針谷 力
栃木市長	大川 秀子
小山市長	大久保 寿夫
野木町長	真瀬 宏子
板倉町長	栗原 実
加須市長	大橋 良一
立山町長	舟橋 貴之
敦賀市長	渕上 隆信
豊田市長	太田 稔彦
豊岡市長	中貝 宗治
廿日市市長	松本 太郎
荒尾市長	浅田 敏彦
宮古島市長	下地 敏彦
茨城町長	小林 宣夫
中之条町長	伊能 正夫
佐賀市長	秀島 敏行
鹿島市長	樋口 久俊
南三陸町長	佐藤 仁
江戸川区長	斎藤 猛
大崎市長	伊藤 康志